

## 特別支援教育とは

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものです。(文部科学省 HP より)

➡岡村小学校では、障害の有無に関わらず、教育的ニーズのある児童に対して支援を行う体制の整備を進めています。

### お子さんの様子で、次のような気になることはありませんか？



このような行動の原因として、お子さんの特性や発達による場合があります。保護者の方が心配されるのはもちろんのこと、お子さん自身が日々の生活の中で困り感をもっています。様々な場面での失敗やトラブルが繰り返されると、自己肯定感が下がり、問題が深刻になることがあります。

お子さんの気になる行動については、「この子はわがままだから」「育て方に問題が」「先生の教え方が」「友達が悪いから」と決めつけず、一人ひとりの特性や発達の特徴を、正しく理解することが大切です。子どもは苦手なことを得意なことでカバーしながら、苦手な部分をもっている自分と付き合っていくことを学びます。大人はその子が、何が得意で何が苦手かを理解し、苦手な部分との付き合い方を子どもと一緒に考えることが大切です。

本校では、子どもの困り感に気付き、保護者と学校(管理職、担任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、児童支援専任)で、支援の方法や協力体制を話し合いながら支援を進めています。お子さんのことで、気になる事がありましたら、ぜひ学校までご相談ください。また、本校では、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが定期的に来校し、相談を受け付けております。ぜひご活用ください。(窓口:児童支援専任または担任)

### 今年度 本校で実施した、特別支援教育の例

- ① 学級担任等による個別の配慮や支援
- ② アシスタントティーチャー等によるサポート
- ③ 特別支援教室(ほっとるーむ)での個別・少人数での学習支援
- ④ 登校渋り傾向の児童への支援→保健室や特別支援教室(ほっとるーむ)利用、短時間登校など



# 児童間トラブル等について



## 低学年は善悪についての理解と判断が育つ時期

小学校低学年の子どもは、友達と一緒に遊んだり活動したりする中で、人との関わり方を学んでいきます。しかし、自分の思いを上手に表現できない時期でもあり、友達と言い合いになったり、叩いたり蹴ったりといったトラブルが多いのが現状です。はじめは大人が介入しながら、善悪についての理解と判断する力を育てていきます。保護者の方にもご理解いただきながら、トラブルを解消し、子どもたちが安心・安全に学校生活を送ることができるように支援していきます。

低学年は、規範意識の基礎の形成の時期でもあるので、ぜひご家庭でも、お子様の、集団や社会のルールを守る態度を育てていただきたいと思います。



## トラブルへの対応について

お子様の様子がいつもと違ったり、悩んで困っていたり、登校を渋ったりした時は、遠慮なく学校にご連絡ください。担任をはじめ、児童支援専任、養護教諭など、関係職員が相談に応じます。

岡村小学校でははじめの未然防止に努めていますが、もしはじめが確認されたときには、児童の思いを聴き取り、その早期解決を図ります。学校 HP に、「岡村小学校いじめ防止基本方針」を掲載しています。ぜひご覧ください。

## その他のトラブル

お金の貸し借りによるトラブルや、放課後のトラブルなども多数起こっています。ご家庭でも、お金の管理や放課後の過ごし方などについてご指導をお願いします。

# ネットの危険から子どもを守るために



## SNS がきっかけとなるトラブルは、本校でも起きています!

- SNS (LINE やオンラインゲーム) での悪口や、グループから外す行為などから始まるいじめトラブル
- ゲームで高額な課金をしてしまった
- 遅くまでゲームをすることで寝不足となり、学習に支障が出たり、朝起きられず遅刻が多くなったり、不登校になったりした
- 知らない人とやり取りをして、犯罪に巻き込まれそうになった など



## ネットの危険から子どもを守るために保護者ができること

- SNS やインターネットの使用状況を、毎日チェック
- SNS には「悪い人」がいることを伝える
- フィルタリングサービスを利用し、パスワードは保護者が管理

## ご家庭で ルールづくりをしましょう

- 使用時間は1日1時間 (例)
- リビングや家族の目の届くところで使用する
- 食事中や外出中は使用しない など

